

Section
01Z50IIの各部名称を
確認しよう

Keyword ボタン／ダイヤル／各部名称

1

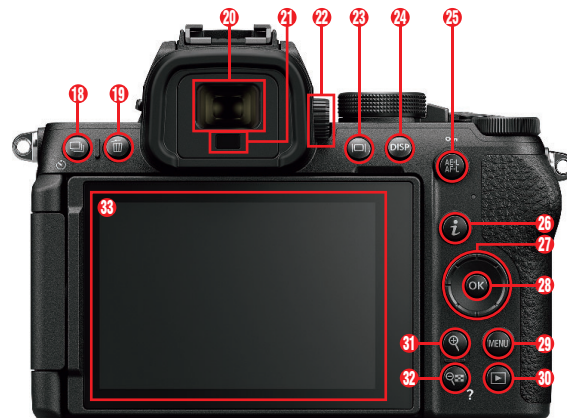
Z50IIの基本操作をマスターしよう

まずは本体のボタンやダイヤルの位置と操作を覚えよう。ボタンの配置がわからず、操作を確認している間にシャッターチャンス逃すというのは、初心者ありがちなこと。本体を見なくてもスムーズに操作できるようになるのが理想だ。

1 ボタンの配置と名称を覚える



1 サブコマンドダイヤル	7 電源スイッチ	13 静止画／動画セレクター
2 Fn1ボタン	8 露出補正ボタン(±)	14 撮影モードダイヤル
3 Fn2ボタン	9 ISO感度ボタン(ISO)	15 マイク(ステレオ)
4 レンズ取り外しボタン	10 動画撮影ボタン	16 距離基準マーク(∞)
5 内蔵フラッシュ	11 ピクチャーコントロールボタン	17 スピーカー
6 シャッターボタン	12 メインコマンドダイヤル	



18 リリースモードボタン(□)	26 iボタン(i)
19 削除ボタン(🗑️)	27 マルチセレクター
20 ファインダー	28 OKボタン(OK)
21 アイセンサー	29 MENUボタン(MENU)
22 視度調節ダイヤル	30 再生ボタン(▶)
23 モニターモード切り換えボタン	31 拡大ボタン(🔍)
24 DISPボタン(DISP)	32 縮小/サムネイル表示ボタン(🖼️)
25 AF-L/AF-ON(On)ボタン	33 画像モニター



34 外部マイク入力端子	36 HDMI端子
35 ヘッドホン/リモートコード端子	37 USB端子

要点

- ダイヤルやボタンの位置は正確に覚えておく
- 本体を見ずに操作すればスムーズな撮影につながる

1

Z50IIの基本操作をマスターしよう

Section
09

撮影モードを確認しよう

Keyword 撮影モード／シーンモード

1

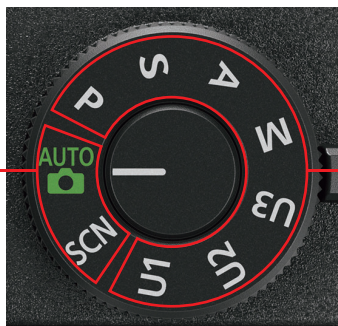
Z50IIの基本操作をマスターしよう

Z50IIには**9つの撮影モード**が用意されており、撮影モードダイヤルを回すことで変更できる。それぞれのモードにどんな特徴があるかを把握した上で、撮影シーンに応じて適切に使い分けよう。

1 撮影モードを知る

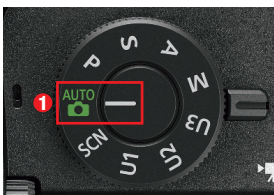
Z50IIの撮影モードは、撮影者がシャッタースピードや絞り値といった**数値を設定できるモード**と、撮影者がシーンやイメージのみを選択して**数値はカメラが設定するモード**の、大きく2種類に分けることができる。

撮影者はシーンやイメージの選択のみで、数値はカメラ任せになるモード。



絞り値やシャッタースピードなどの数値を撮影者が設定できるモード。

■ 撮影モードを設定する



撮影モードダイヤルを回し、ダイヤル中央の指標にモードを合わせると①、撮影モードが変更される。

2 シーンモードで撮影する

シーンモードとは、**撮影するシーンが決まっている時に使用するモード**。例えば夜景を撮る時に「夜景」モードに合わせれば、カメラが最適な数値を設定して、きれいな夜景写真を撮影することができる。



撮影モードダイヤルをSCNに合わせる①。



メインコマンドダイヤルを回すと②、シーンモードを変更できる③。

■ シーンモードで設定できるシーン

ポートレート	人物の肌をなめらかで自然な印象に写す。
風景	自然風景や街並みを色鮮やかに写す。
こどもスナップ	子どもの肌の色、服装、背景を鮮やかに写す。
スポーツ	動きのある被写体の一瞬を鮮明にとらえ、躍動感のある画像に仕上げる。
クローズアップ	花屋昆虫などの小さな被写体に近づき、大きく写すことができる。
夜景ポートレート	夕景や夜景をバックに人物を撮影する。
夜景	ノイズや不自然な発色を抑え、街灯やネオンなどの光を鮮やかに表現する。
パーティー	室内の光の雰囲気も残しながら表現する。
海・雪	晴天の海や湖、砂浜、雪景色などの撮影に適している。
夕焼け	夕焼け、朝焼けの風景を鮮やかに写す。
トワイライト	夜明け前や日没後の風景を綺麗に表現する。
ペット	動き回るペットや動物の撮影に適している。
キャンドルライト	ろうそくの光の下での撮影に向いている。
桜	桜や花畑など、花がたくさん咲いている風景の撮影に適している。
紅葉	紅葉の赤や黄を鮮やかに表現する。
料理	料理を鮮やかに写し、美味しそうに表現する。

撮影

- 撮影モードは撮影モードダイヤルを回して設定する
- 撮影モードには、撮影者が数値を設定するモードと、撮影者がシーンやイメージのみを選択するモードがある

1

Z50IIの基本操作をマスターしよう

Section
05被写体を検出して
AFでピントを合わせよう

Keyword AF/被写体検出

Z50 IIには「被写体検出」があり、**特定の被写体に優先してAFを合わせるよう指定**することができる。被写体が決まっている撮影では、被写体検出を設定してAFをカメラになるべく任せ、構図や明るさに集中すると良い。

1 被写体検出を設定する

被写体検出は、iメニューから設定する。設定できるモードは全7種類で、「しない」に設定して被写体検出をオフにすることもできる。また、AFエリアモードが「ピンポイントAF」「シングルポイントAF」時には作動しないため、それ以外のモードに設定する必要がある。



AFエリアモードが、被写体検出に応じたモードに設定されていることを確認する①。

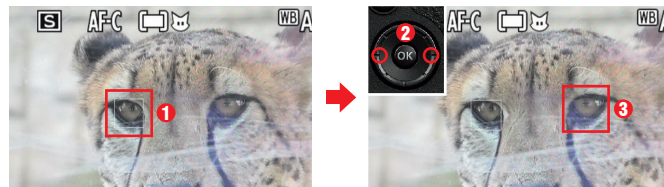
iボタンを押してiメニューを表示し②、「AFエリアモード/被写体検出」を選択する③。

下段の被写体検出から任意のモードを選択する④。

オート	人物、動物、乗り物を対象に、カメラが被写体を検出してピントを合わせる。
人物	カメラが人物を検出して優先的にピントを合わせる。瞳を検出した場合、どちらの瞳にピントを合わせるかを設定できる。
動物	カメラが動物を検出して優先的にピントを合わせる。瞳を検出した場合、どちらの瞳にピントを合わせるかを設定できる。
鳥	カメラが鳥を検出して優先的にピントを合わせる。瞳を検出した場合、どちらの瞳にピントを合わせるかを設定できる。
乗り物	カメラが乗り物を検出して優先的にピントを合わせる。
飛行機	カメラが飛行機を検出して優先的にピントを合わせる。
しない	被写体検出を行わない。

2 検出した被写体の瞳を選択する

被写体検出を「人物」「動物」「鳥」に設定し、ピントを合わせた際に瞳を検出した場合、**どちらの瞳にピントを合わせるかを選択**できる。また、複数の人物を検出した場合は、その中からピントを合わせる顔や瞳を選択できる。なお、被写体検出を「人物」にして、実際に人物が検出された場合、フォーカスポイントよりも人物の顔や瞳を優先してピントを合わせる。



ここでは被写体検出設定を「動物」にして、チーターにカメラを向けた。瞳にフォーカスポイントが表示されている①。

◀▶を押すと②、どちらの瞳にピントを合わせるか選択できる③。



被写体検出を「動物」にして、キリンの瞳にクローズアップして撮影した。焦点距離180mm(35mm判換算270mm)という超望遠、F5.6と浅い被写界深度で、手持ち撮影でピントを合わせるには少し難易度の高い状況だったが、被写体検出によりしっかりと目にピントを合わせることができた。

カメラ設定

撮影モード プログラムオート
絞り値 F5.6
シャッタースピード 1/800秒
露出補正 ±0 ISO感度 200
ホワイトバランス 自然光オート
使用レンズ NIKKOR Z DX
50-250mm f/4.5-6.3 VR
焦点距離(35mm判換算) 180mm
(270mm)

Section
02プログラムオートで
撮影しよう

Keyword プログラムオート/プログラムシフト

プログラムオートとは、**絞りもシャッタースピードもカメラが決めるモード**だ。2つの数値の組み合わせは撮影者が決めることができる。絞りとシャッタースピードの組み合わせを変えることを「**プログラムシフト**」と呼ぶ。

1 オートに近いモード

絞りとシャッタースピードはカメラが決めるため、使用感としてはオート(→P.28)に近い。設定はカメラ任せにして、**思いがけないシャッターチャンスでとっさに撮影したい、というシーンで活躍する**。



フラミンゴの群れの中に、一羽だけ首を持ち上げてじっとしている鳥がいた。素早く望遠レンズに付け換えて、プログラムオートで撮影した。

カメラ設定

撮影モード プログラムオート 絞り値 F6.3 シャッタースピード 1/500秒 露出補正 ±0
ISO感度 100 ホワイトバランス 自然光オート
使用レンズ NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR 焦点距離(35mm判換算) 250mm(375mm)

2 プログラムオートで撮影する

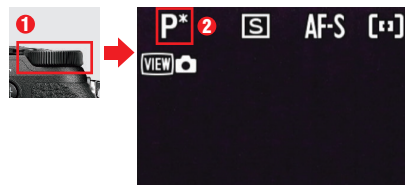
プログラムオートは、撮影モードダイヤルを「P」に合わせることで使用できる。またサブコマンドダイヤルを回すと**プログラムシフト**が起こり、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変えることができる。同じ露出を保ちながら絞りを開けてボケを作るなど、**描写を変える**ことが可能だ。

■ プログラムオートに設定する



撮影モードダイヤルを「P」に合わせると①、プログラムオートになる②。

■ プログラムシフトを活用する



メインコマンドダイヤルを回すと①、絞り値とシャッタースピードの組み合わせが変わり、Pの横に「*」が表示される②。

F2.0 1/2500秒



F8 1/250秒



左の写真は、プログラムオートの初期設定で撮影。絞り値はF2となり背景が大きくボケた。右の写真はプログラムシフトを活用し、F8まで絞り込んだため、背景のボケは目立たなくなった。

要点

- 絞りもシャッタースピードもカメラが決めるモード
- とっさに撮影したい時に有効
- 絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変える「プログラムシフト」が使える

Section
07

測光モードを使い分けよう

Keyword 測光モード

測光モードとは、カメラが露出を決める際に、**画面のどの部分を基準に露出を測定するかを決める機能**だ。マルチパターン、中央部重点といった部分的な指定のほかに、ハイライト部が白とびないように設定することもできる。

1 測光モードを設定する

測光モードは、初期設定ではiメニューから設定できる。どの撮影シーンでどのモードを使うのか、あらかじめ大まかに決めておく、素早く設定を変更することができる。



iボタンを押してiメニューを表示し、測光モードを選択する①。

任意の測光モードに設定する②。

2 測光モードを活用する

各測光モードの特徴を把握しておこう。**マルチパターン測光**が名前の通り**どんなシーンに対応できる**ので、基本的にはマルチパターン測光に設定しておけば問題ない。



マルチパターン測光

画面全体の露出を測り、平均値を算出して白とびや黒つぶれが起きないように露出を合わせる。どんな撮影シーンでも対応できる。

中央部重点測光

画面の中央部を重点的に測光する。被写体を中央付近に配置する時に向いている。また、測光範囲を変更することができる。



スポット測光

フォーカスポイント付近を重点的に測光する。AFエリアモードが「オートエリアAF」の時は、画面中央を測光する。主役の被写体と背景の輝度差が大きい時に向いている。

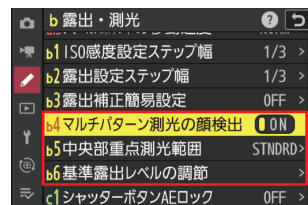


ハイライト重点測光

画像の中のハイライト部が白とびないように測光する。光源が画面の中に入るなど、極端な逆光で白とびさせたくない時に有効だ。



ONE POINT 測光方式の詳細設定を行う



MENUから、「中央部重点測光」時の測光範囲や、測光モード全体の基準となる露出など、測光モードのさらに詳細な設定を行うことができる。

要
点

- 測光モードとは、露出を図る基準を決める機能のこと
- マルチパターン測光はほとんどのシーンに対応できる
- MENUからさらに詳細な設定を行うこともできる

Section

01

交換レンズの基本を知ろう

Keyword 広角レンズ／標準レンズ／望遠レンズ／ズームレンズ／単焦点レンズ

Z50IIをはじめ、ミラーレスカメラは**レンズを交換することで画角を変え、写真表現を工夫することができる**。まずはレンズの構成やスペックの読み方を覚えよう。また、レンズを変えることによる効果や違いも把握しておきたい。

1 レンズの構成を知る

Zマウントレンズは主に**ズームリング**、**焦点距離指標**、**ピントリング**の3つで構成されている。レンズ操作の際はこの3つに注目して行う。ここではZ50IIのレンズキットに付属されている「NIKKOR Z DX 16-50mm f/3.5-6.3 VR」を例に解説する。



① ズームリング	焦点距離を変更するリング。画角の広狭を調節する。
② 焦点距離指標	ズームリングを調整した際に、現在の焦点距離がどれくらいなのかを示す。
③ ピントリング	MF時のピント位置を調節する。

2 レンズ名の読み方を知る

レンズにはそれぞれ固有の名前が割り振られており、その名前からどれくらいの広さを写せるのか、どのくらいの絞り値に設定できるかなど、**ある程度の性能を予測できる**。レンズ名の読み方を覚えて、自分が使っているレンズがどの程度のスペックを持っているか把握しよう。



① Z	ニコンZマウントに対応したレンズであることを示している。
② DX	ニコンDXフォーマットに対応したレンズであることを示している。
③ 16-50mm	焦点距離（→P.82）が16mmから50mmの間で調整できることを示している。
④ 1:3.5-6.3	レンズの開放絞り値が3.5から6.3の間で変化することを示している。焦点距離16mm時にF3.5、50mm時にF6.3になる。
⑤ VR	手ブレ補正機構が搭載されていることを示している。
⑥ φ46	フィルター径が46mmであることを示している。

ONE POINT Fマウントレンズの読み方



ニコンには、Zシリーズ登場前に長く使用されてきたFマウントレンズが数多くラインナップされている。AFシステムの違いによってAF-S、AF-P、Aiなどがあるが、スペックの読み方は基本的に同じだ。

Section
04

望遠ズームレンズを使おう

Keyword 望遠ズームレンズ／圧縮効果

焦点距離が長くズームできるレンズを望遠ズームレンズという。被写体から離れていても撮影できるため、遠くの被写体を狙い、画面に大きく写すことができる。標準ズームレンズと比べてサイズは大きく、重量も重くなる傾向がある。

1 NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR

50mmから250mmまでカバーしつつも、軽量・コンパクトな望遠ズームレンズ。手ブレ補正を内蔵しているため手持ち撮影でも使いやすく、被写体を選ばずに気軽に持ち出せる1本だ。



カメラ設定

撮影モード シャッター優先オート 絞り値 F7.1 シャッタースピード 1/100秒 露出補正 ±0
ISO感度 200 ホワイトバランス 自然光オート
使用レンズ NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR 焦点距離(35mm判換算) 185mm(277.5mm)

2 遠くの被写体をクローズアップしてとらえる

望遠ズームレンズを使えば、撮影者が近づくとできない被写体を遠くから撮影できる。注目した部分をクローズアップすれば、肉眼では見ることができないディテールまで写し出すことができ、写真撮影ならではの表現を味わうことができる。

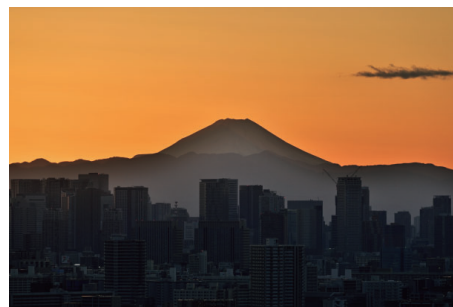


カメラ設定

撮影モード マニュアル
絞り値 F6.3
シャッタースピード 1/320秒
露出補正 ±0
ISO感度 320
ホワイトバランス 自然光オート
使用レンズ NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR
焦点距離(35mm判換算) 250mm(375mm)

3 圧縮効果を利用する

長い焦点距離で撮影すると、近くの被写体と遠くの被写体の距離が短くなっているように写る。これを圧縮効果という。画面の密度が高まり、被写体の重なりが強調されるため、被写体と背景の両方の存在感を強調した写真表現となる。



カメラ設定

撮影モード マニュアル
絞り値 F10
シャッタースピード 1/100秒
露出補正 ±0
ISO感度 320
ホワイトバランス プリセット
マニュアル
使用レンズ NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR
焦点距離(35mm判換算) 185mm(277.5mm)

要知

- 望遠ズームレンズは離れた被写体を写すために使う
- 遠くの被写体でも大きく写すことができる
- 圧縮効果で背景との距離感を縮めて写すことができる

Section
02ADL／HDR合成で
白とびや黒つぶれを防ごう

Keyword ADL／HDR合成

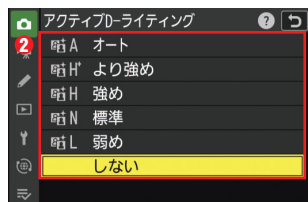
アクティブD-ライティング(ADL)とHDR合成は、輝度差のある場面で白とびや黒つぶれを防ぐ機能だ。2つの違いは、画像の調整方法にある。ADLはカメラが明るさを計測して補正するのに対し、HDRは複数の写真を合成して広い階調を得る。

1 ADLとは

ADLは、カメラが明るさを計測して、**ハイライト部とシャドウ部の輝度差が少なくなるように補正する**機能だ。完全な逆光状態や、晴れた日に室内から室外を撮るなど、極端な輝度差があり、白とびや黒つぶれが発生しそうな時に使うと良い。



静止画撮影メニューから「アクティブD-ライティング」を選択する①。



任意の度合いを選択する②。



葉が生い茂る木を見上げて撮影した。木陰になっている部分と空の輝度差が大きく、木の幹が暗くなりすぎってしまう場面だったため、ADLを「強め」に設定した。

カメラ設定
撮影モード マニュアル
絞り値 F8
シャッタースピード 1/125秒
露出補正 ±0
ISO感度 160
ホワイトバランス 自然光オート
使用レンズ NIKKOR Z DX
12-28mm f/3.5-5.6 PZ VR
焦点距離(35mm判換算) 12mm
(18mm)

2 HDR合成とは

HDR合成は、一度の撮影で**明るさの違う2枚の写真を撮影し、それを合成することで階調の広い写真に仕上げる**機能だ。ADLと同様、輝度差が大きい場面でも白とびや黒つぶれを起こさずに撮影できる。2枚をまったく同じ構図で撮影する必要があるの、**三脚にカメラを固定するのが前提だ**。



静止画撮影メニューから「HDR合成」を選択する①。

各種設定を整える②。



カメラ設定
撮影モード マニュアル
絞り値 F9
シャッタースピード 1/60秒
露出補正 ±0
ISO感度 100
ホワイトバランス 晴天
使用レンズ NIKKOR Z
DX 50-250mm
f/4.5-6.3 VR
焦点距離(35mm判換算) 84mm(126mm)

夕景撮影はHDRが活躍するシーンの1つだ。赤みを帯びた太陽光が広がる空と、影になる山や町並みの輝度差が激しく、どちらかの露出に合わせると白とびや黒つぶれが発生しやすい。この写真は、夕暮れ時の17時ごろに川沿いの高台から都市風景を撮影したもの。通常の撮影では街並みが影で暗くなったので、HDR合成を使用してディテールを表現した。

要
点

- ADLは、カメラが明るさを計測して白とびや黒つぶれを防ぐ機能
- HDR合成は、複数の画像を合成して白とびや黒つぶれを防ぐ機能
- どちらの機能も輝度差が大きい場面で活躍する

5

便利な機能を使おう

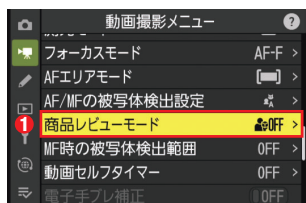
Section
13商品レビューモードで
レビュー動画を撮影しよう

Keyword 商品レビューモード

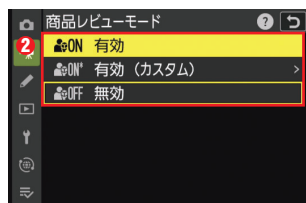
商品レビューモードとは、カメラに一番近い被写体を検出し、ピントを合わせ続ける機能だ。近年、新商品や話題の商品を使用し、そのレビューを動画で配信することが流行している。その商品レビュー動画をより快適に撮影できる。

1 商品レビューモードを設定する

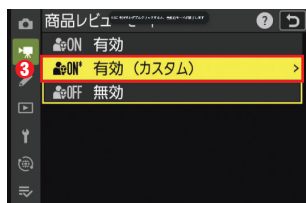
商品レビューモードは自撮りを想定している。カメラを自分にに向けて撮影をスタート。手に持っている商品を紹介し、その商品を大きく見せたい時にカメラに近づく。その際に、カメラが一番近い被写体を検出し、自動でピントを合わせてくれる、というわけだ。



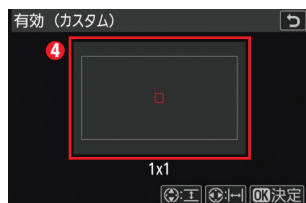
動画撮影モードから「商品レビューモード」を選択する①。



任意のモードに設定する②。



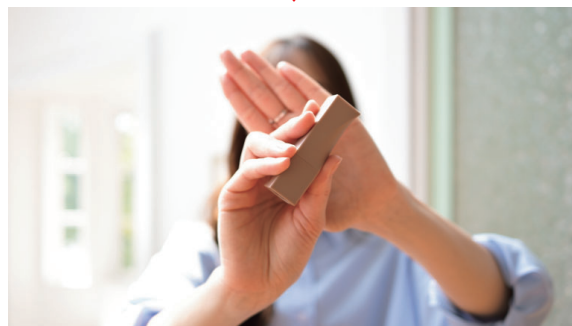
AFエリアの大きさを設定する場合は「有効 (カスタム)」を選択し▶を押す③。



マルチセレクターを操作してAFエリアの大きさと形を設定する④。

2 商品レビューモードで撮影する

商品レビューモードを使用するのは、文字通り**商品のレビュー動画を撮影する時**だ。背景をボカすことで主役の被写体が目立つのは、写真でも動画でも同様だ。手に持った商品の細部を写したり目立たせたりするためには、商品にピントを合わせて背景をボカした方がよい。従来のレビュー動画は、撮影しながらAFを細やかに動かすことが難しかったが、商品レビューモードを使えば商品に正確にピントを合わせ、背景をボカすことができる。



コスメを紹介する動画を切り出した写真。はじめは人物にピントが合い、紹介する商品を差し出した時は商品にピントが合い、背景は大きくボケた。

要
点

- 商品レビューモードは、手前の被写体にピントを合わせ続ける機能
- 商品レビュー動画を撮影する時に使用する

Section
03スマートフォンで
リモート撮影をしよう

Keyword SnapBridge / リモート撮影

SnapBridgeを介して、スマートフォンをリモコンとして使用することができる。Z50IIは、撮影画面をスマートフォンに映し出す**リモート撮影**が可能で、撮影した画像はカメラとスマートフォンの両方に保存される。

1 リモート撮影を行う

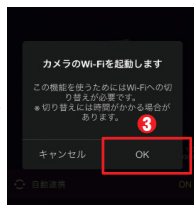
リモート撮影の場合、SnapBridgeの画面にカメラの撮影画面が表示され、**実際の仕上がりをスマートフォンで確認しながら撮影できる**。あらかじめカメラの電源を入れ、レンズを繰り出しておこう。



カメラの電源を入れ、沈胴式のレンズを装着している場合はレンズを繰り出しておく**①**。



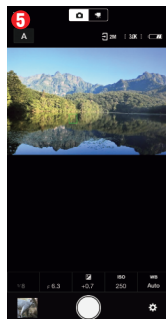
SnapBridgeで、画面下部の「リモート撮影」をタップする**②**。



カメラのWi-Fiを起動する確認画面が表示されるので、「OK」をタップする**③**。

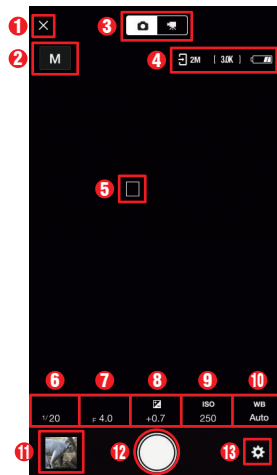


スマートフォン本体の確認画面が表示されるので、「接続」をタップする**④**。



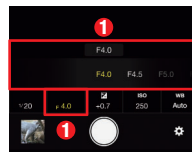
スマートフォンに撮影画面が表示されるので、撮影を開始する**⑤**。

リモート撮影画面



- | | |
|---|-------------------------|
| ① | リモート撮影終了 |
| ② | 撮影モード |
| ③ | 静止画 / 動画切り換え |
| ④ | 画像転送 / 撮影可能枚数 / バッテリー残量 |
| ⑤ | フォーカスポイント |
| ⑥ | シャッタースピード |
| ⑦ | 絞り値 |
| ⑧ | 露出補正 |
| ⑨ | ISO感度 |
| ⑩ | ホワイトバランス |
| ⑪ | 端末の写真フォルダ |
| ⑫ | シャッターボタン |
| ⑬ | カメラ設定 |

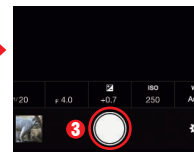
■ 設定を変更して撮影する



画面の中で文字が白くなっている項目は、タップして設定変更が可能だ**①**。撮影モードの変更もできる。

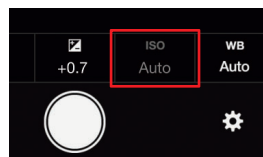


画面上の被写体をタップすると**②**、AFが作動しピントを合わせる。



画面下のシャッターボタンをタップすると**③**撮影できる。

ONE POINT 「ISO オート」ではISO感度を設定できない



各種設定の変更はSnapBridge上で可能だが、ISO感度はカメラ側で「ISO オート」になっていると、SnapBridgeでも設定変更ができない。マニュアル設定したい場合はカメラ側の「ISO オート」をOFFにしておこう。

要点

- SnapBridgeを介してリモート撮影ができる
- 端末の操作で撮影設定を変更して撮影できる